

8 試験方法

8.1 試験場所の状態

JSIA300による。

8.2 構造試験

JSIA300による。

8.3 絶縁抵抗試験

JSIA300による。

8.4 商用周波耐電圧試験

耐電圧試験は、周波数50Hz若しくは60Hzの正弦波に近い表14a) に示す試験電圧を用い8.3の試験箇所にて1分間印加して行う。ただし、表14a) の試験電圧が不適当な電子部品などがある場合は、それらを除外して試験を行うことができる。また、受渡試験などで数多くの盤について試験を行う場合は、試験電圧の120%の電圧を1秒間印加することで、これに代えることができる。

注記 主回路と分離してある制御回路については、表18b) による。

表14－試験電圧

a) 単位V		b) 単位V	
定格電圧	試験電圧（交流）	制御回路の電圧	試験電圧（交流）
60以下	1000	12以下	250
60を超え300以下	1500	12を超え60以下	500
		60超過	2ひ+1000 最低値1500

ただし、ひは定格電圧

8.5 雷インパルス耐電圧試験

JSIA300による。

8.6 シーケンス試験

JSIA300による。

8.7 温度試験

JSIA300による。

8.8 短時間耐電流試験

JSIA300による。なお、定格短時間耐電流が10kA以下のものは除くことができる。

8.9 機械的強度試験

機械的強度試験は、次による。

a) ボックス、前面枠、ドア又は保護板が合成樹脂製のものはJSIA300による。

b) 金属製キャビネットの場合は金属製キャビネットの任意の点で、445Nの垂直の力を加えたときに、内側に変形した値を測定する。力は161.3mm<sup>2</sup>の平らな鋼材面を有するロッドを通じて加える。キャビネットはドアを閉じ固定した状態で、その背面は滑らかで硬く、かつ水平な面上に置く。

2回以上の試験を必要とする場合は、追加試験用として別の試供品を使用できる。

8.10 耐熱試験

JSIA300による。